

令和 7 年度 徳田地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 7 年 11 月 10 日(月)19:00~20:30

【場 所】徳田小学校体育館

【参加者】地域:67 人

市 :市長、教育長、学校政策課長、徳田公民館長(司会)

テーマ

(1)小中学校の再編について

(2)フリートーク

R7.11.10 当日の発言内容

■参加者

- ・徳田地区は少子高齢化が進み、現在人口 1,180 人。5 年間で 185 人減少している。
また、後期高齢者は現在 355 人で、地域人口の約30%を占めている。
- ・徳田小学校の児童数は、35 名。5年後には 25 名、10 年後には 18 名と予想されている。田滝小の児童数は、現在 9 名。5 年後は 8 名、10 年後は 4 名と予想されている。市内 25 小学校のうち、児童数が一番少ないのが田滝小、次いで徳田小である。
- ・この現状を踏まえ西条市として今後どのようにしていきたいのか説明をお願いしたい。
- ・子どもたちにとって何が最善であるか子どもファーストで考えてほしい。
- ・仮に学校を再編する場合、徳田公民館はどうなるのか合わせて説明をお願いしたい。

●市長

- ・中心地より過疎化が進んでいるが、特色を活かしたよい教育をしていただいていると思う。児童数の減少が進む中で、どのようにしていくかしっかり検討していきたい。

●学校政策課長(答申書の写しを資料として配布し、内容を説明)

- ・近年の少子高齢化に伴い、地域や保護者から児童数減少に対する不安の声が数年前から市に寄せられていた。この状況を受け、市は現状を踏まえた最適な方向性を検討するため教育委員会に答申を求めた。
- ・2、3 年前に庁内で検討チームを編成し準備を進め、保護者や教職員へのアンケートでは、市全体で約 7 割が「統廃合はやむを得ない」と回答している。
- ・その後、令和 6 年度に PTA や有識者など約 20 名から成る学校適正規模・適正配置審議会を設置し、約 7 回の協議を経て令和 7 年 1 月に答申書が提出された。
- ・教育委員会には現在も不安の声が寄せられていることから、4 月以降は小規模校地域に出向き、今後の方向性について意見交換を行っている。
- ・答申書では、子どもたちにとって最適な教育環境を第一に考え、適正規模化の必要性が示されている。適正規模の基準として、小学校は 25 人程度、中学校は 35 人程度を目安とし、複式学級の解消が重要視されている。

- ・徳田、田滝小学校は既に複式学級が編成されており、少なからず不安の声がある状況。
- ・また、ICT教育やスクールバスなどの課題があるため、メリットやデメリットを十分に検討すべきとされ、小中一貫校や小規模特認校など多様な学校のあり方も検討対象とされている。
- ・丹原地域では、第1期として今後10年間で5つの小学校の統合案が示され、中学校では丹原東中と丹原西中の統合の案が示されている。
- ・ただし、アンケートでは約3割が現状維持を望んでおり、小規模校を一律に廃止するのではなく、小規模校の課題解消と多様な学校の選択肢を確保する方針が示されている。

●市長

(R5 文科省「学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」に基づく資料の内容を説明)

- ・学校の適性化には保護者や住民との合意形成が必要。
 - ・小規模校のメリットを活かす取り組みへの支援が重要。
 - ・全国的に見て、統合形態は2校を1校にするケースが多い。
 - ・小規模校で統廃合ができないケースとしては、地理的要因が多い。
 - ・統合後の学校施設は改修されないケースが多い。
 - ・統合検討開始から開校までの期間は3年以内が多い。など
-
- ・小規模校のメリットはいくつもあるが、やはり通学距離が短いということが多い。デメリットとしては、友人関係が狭まるなどがある。
 - ・統廃合を行った場合のメリットとして、子どもでは、友達が増えてよかった等様々ある。
 - ・保護者の方もよりたくさんの人と関われるようになった、学年行事が楽しい。
 - ・地域住民の方は、集団生活ができる規模になって望ましいということも言われている。
 - ・一方でデメリットとしては、児童生徒は通学が遠くなって通学が辛くなった、なじめないといったこともある。
 - ・保護者では、新しい学校への不適應や転校によるストレスが増えたとか、人間関係が密になりすることで、逃げ場を失う気がするなどがある。
 - ・地域住民の方にとっては、地域の核を失われたといった意見がある。
 - ・また、県外の首長にお尋ねしたところ、統廃合を進めた結果、地域から自然と子育て世代がいなくなったとのことである。そうすると高齢化が加速化し、場合によっては地域コミュニティの喪失ということも考えられる。
 - ・データに基づいて検討することも必要だと考える。

■参加者

- ・特に小学校は、教育の現場であるとともに地域コミュニティの核となると思う。
- ・統廃合問題に関して、市の中心部と広い地域を持つ丹原地域では状況が違うと思う。
- ・大規模小規模校のどちらでも教員経験があるが、それぞれの良さがある。小規模校であることが理由で学力が落ちるということはない。子どもは素直な心を持っている。徳田や田滝小の子どもたちは、のびのびと素直に育っている。

- ・幼少期は、感性を育てる時期だと思う。学習発表会では、子どもたちが仲良く生き生きと活動している姿を拝見する。
- ・一方で、複式学級は先生への負担が大きいと思う。子ども達にとっても良い面もあれば、大変なことも多々ある。
- ・先生方も ICT などを活用して工夫されているが、コミュニティスクールを活用して地域としても協力していく必要がある。
- ・徳田小学校の令和8年度入学予定者は 7 人。この中には、市外からの移住者で、徳田地域で子育てをしたいという方やリターンで戻ってくる方もいると聞いている。
- ・教育面を一番に考えたいという話があったが、心の教育も必要だと思う。地域の良さをどんどん出して欲しい。
- ・令和 5、6 年度は、徳田地区で 5、6 人生まれている。この子ども達が今後地域に根付くかどうかは、地域のあり方次第である。
- ・知らないうちに丹原高校の廃校が決定し、JA、スーパー、バス、移動図書館も無くなり、過疎化の進行を最近常を感じている。
- ・行政には過疎化対策をしていただくとともに、自治会長を中心に私達もできることをして、地域力を向上させ子ども達の未来のために協力していきたい。
- ・地域の高齢者も持っているパワーや技術を子ども達にも伝えていきたいと考えている。
- ・子どもを小規模校に通わせてよかったという保護者の意見もあるので、色々な方の意見を聞きながら、適正化を考えていただきたい。

■参加者

- ・全国から小規模校を目的にしている移住者がいる。多様性といわれる中、小規模を残すことも西条市周辺部の小さな地域で生き残っていく方法かなと思う。
- ・大規模校が得意な子どもがいる一方で、小規模校だったから学校に通えたという話も聞くので、とても重要なことだと思う。また、地域性も異なると思う。
- ・なくすことは簡単だが、復活させることは難しいので、規模適正化の対象となっている学校の地域で話し合いの場を持ち、地域としてどうするかを考えることが一番大事だと思う。

■参加者

- ・答申書の内容に関して、通学において体力的に問題がない学年(小 6 と中 3)の保護者をアンケート調査の対象にしていることに疑問を感じた。中学 1~2 年生や小学 1~2 年生の保護者を対象にしてはどうかと考える。
- ・「統合はやむを得ない」と回答した方が 70%だが、その分母はどんなものか。学校の規模ごとではどうなのか。
- ・人口動態で 10 年先の児童生徒数の将来推計を書いているが、本当に正しいのか。
- ・職場づくり、子どもの住環境を積極的に改善していけば、子育て世帯が住んでくれるだろう。仮に、「市が徳田地区に 3LDK の一戸建て住宅を月 1 万円で提供する」ということになれば、需要は多いと思う。
- ・小学校は地域のコミュニティの中心であり、運動会や盆踊りには高齢者も集うので、もし学校がなくな

なれば、そういった機会がなくなり地域はますます衰退していく。

■参加者

- ・少人数だからこそできることがあると思う。複式学級だからこそできる飛び級制度やリーダー教育など特色ある教育をすることによって、県外から移住してくる保護者もいると思う。
- ・「徳田小だからこそ行きたい」という方もいるようなので、安易に統廃合・適正化をするのではなく、まずはビジョンや方向性を打ち出し、積極的に進めることによって方向性が見えてくると思うが、そのあたりいかがか。

●市長

- ・人口動態に関しては、正確とは言えないかもしれない。行政としては、人口減少への対策として企業誘致をしっかりと行っていきたい。
- ・丹原地域に食品加工場ができる。今後 100 人以上の従業員の方々が来られる予定で、多くの従業員の方が区内に住むと思う。
- ・小規模校での ICT 教育等、多様性のある教育をしっかりと進めていく。特に田滝小では、ICT 教育が非常に優れており、全国的にも認められている。そういったこれまでの素晴らしい歴史があるので、どんどん伸ばしていきたい。
- ・学校が現状のまま維持できるかどうかは、市がしっかりと考える必要がある。これまでも地域住民の皆さんにご尽力いただいているが、それぞれの小学校を残すためには、より一層地域が一体となる必要があると思っている。また、財政面もしっかり考えていきたい。
- ・小中学校に関しては市の所管であるが、財政面で十分ではないところもあるので、寄附等も考慮しながら、現在できることをしっかりとやっていきたい。

●学校政策課長

- ・アンケートの集計方法については、同様の意見が他の地域からも出ている。
- ・当時アンケートのベースとして、小中で学校生活を長く送っている小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象とし、アンケート結果を元にさらに議論を深めていくという意図があったように解釈している。

■参加者

- ・PTA 役員会にて、学校適正規模適正化について意見交換を行い、それを取りまとめたものを発表させていただく。(以下のとおり)
- ・まず結論として、適正化に対して賛成反対以前に、統廃合についての情報が少なすぎて判断のしようがない。未就学児がいる世帯の方は、自分の子どもがどこの学校に通うことになるのか不安を抱えているので、早く結論を出して欲しい。
- ・統廃合された場合に自分達の生活がどう変わるのかということも知りたい。知った上で賛成反対の判断をしたい。

① 登下校

- ・この地域から他の学校に通うことになると、徒歩通学が難しくなると思うので、スクールバスなどを検討してほしい。

② 行事

- ・今は地域と一緒にいる運動会や盆踊りの行事が、再編後どのような形になるのか心配。統廃合されても、地域の方とできるような形を取ってほしい。
- ・PTA が地域の人と一緒にやるお祭りなどの行事が再編後どうなるのか心配。地域の方と関わる行事は残して欲しい。

③ 施設・設備

- ・校舎の活用を希望する。
- ・予算に限りがあると思うが、学校を残すとなった時に施設の老朽化にどう対応していただけるのか。
- ・耐震性や老朽化への対応として、子どもが本当に安全に過ごせる学校環境を維持できるのかという心配を抱えている方もいる。

④ 児童数の減少

- ・このまま子どもが減少していくと、賛成反対以前に統合はやむを得ないと考えている方が多いと思った。
- ・現在、徳田小学校に子どもが楽しく通っているので満足しているが、もし今後 10 年間で児童数が半減した時に、果たして同じように思えるかどうか分からない。
- ・児童数の減少に伴い、先生の数が減ることに対して心配の声もある。目が行き届かなくなるのではないかと。逆に、統廃合された場合に小規模校から大規模校に移って、先生の目が行き届かなくなるのではないかと不安もある。
- ・再編に伴う特別支援学級の解消によって、先生方の負担軽減ができるのではないかと。こちらも再編後の具体的な対応策を知りたい。自分の生活がどのように変わるのか知りたい。

⑤ 地域での役割

- ・災害時の緊急避難場所としての役割やその機能の存続。
- ・その他、学校がなくなることへの寂しさを感じている方もいる。今の段階では一概に賛成反対を申し上げられない状況だと思う。

■参加者

- ・私自身は高齢者のことも考えてしまう。
- ・現在年 2 回ほど独居高齢者を集めて、会食や懇談をしており、その内の 1 回は、徳田小の子ども達の訪問があり、クイズやゲーム、お芝居をしてくれている。お年寄りの方は大変喜び、次回も楽しみにしている。再編されるとこういった事業がなくなり、独居老人が寂しい思いをするのではないかと。
- ・先ほどの話を聞いて、PTA の方も地域の関わりがなくなることを考えて(心配して)くれていることが意外だった。余計に小規模校の重要性を認識させられた。
- ・先生方は大変だと思うが、教育委員会でも全国の小規模校や複式学級の成功例を調べていただき、学校を残す方法も検討してほしい。

●学校政策課長

- ・PTA の意見をとりとめいただき感謝する。情報発信が不足しており、保護者や地域の方に不安を

感じさせてしまい、お詫び申し上げます。

- ・現在、市内小学校で通学距離が 3 kmを越える児童がいるが、現状としてスクールバスは出ていない。一概には言えないが、全国的に見て 4 kmを超えた場合にスクールバスを運行することが一般的なようだ。
- ・老朽化については、徳田小学校では耐震化を行っているが、築 40 数年経過しており、まもなく鉄筋コンクリートの耐用年数となる。
- ・一方で、西条市内の小中学校や公共施設において、長寿命化工事を実施している。古い建物から順次着手しているので、施設自体は、計画に則って長寿命化する場合、20 年以上は持つのではないかと考える。
- ・所管外の話ではあるが、統廃合後は、学校教育以外の用途として利活用することとなった場合、地域のための場所として活用する検討も必要だと考えている。
- ・学校や地域行事については、柔軟に対応できるのではないかと考える。
- ・実際に統廃合するとなれば、西条市内の教員の配置数は大きく減少するので、大規模校になるのであれば、きめ細やかに行き届く範囲が十分でなくなる可能性がある。
- ・各方面で先生の苦労や負担軽減に取り組む必要があるが、教員数が減少すると、それなりの負担がまた違った形で出てきてしまうので、不安の種になるかもしれない。

●市長

- ・市外の方が西条市に来てくれるような体制(取組み)を宣伝することも必要だと考える。
- ・現在、統廃合について判断しようがないというのはおっしゃる通りだと思っている。地域の皆さんに小規模大規模校の長所短所を理解して頂く一方で、未就学児の保護者の方の意見を大事にしたいというのもある。
- ・現在、皆さんの関心は小学校についてだと思っているが、答申書には、中学校も含まれており、丹原西と丹原東を統合するという案が出ている。中学校に関しては、最小校区(単位)ではないので、小学校よりも難易度は低く、統合しやすいと考える。
- ・中学生になると体力が付き、自転車通学ができるようになる。あまりに少人数であれば学力面で課題がある。中学校に関してはどのような考えかお尋ねしたい。

■参加者

- ・近年災害が多く、南海トラフもいつ来るか分からない中、避難所等防災拠点としての役割は欠かせないので、仮に小学校が統合しても、防災拠点をなくすことは地域が消滅することになるので、死守していただきたい。

■参加者

- ・もし、小学校が統廃合された場合に徳田公民館は残るのか。

●学校政策課長

- ・直接の担当課ではないが、お答えさせていただく。
- ・もし学校が統廃合する方向になったとしても、公民館は地域コミュニティの 1 つの核となる場所で

あると思う。老朽化問題はあるが、学校の統廃合と連動するものではない。

(2)フリートーク

①鳥獣被害

■参加者

・周辺の作物はサルやイノシシ、シカの被害でほぼ休耕状態になっている。丹原地域が魅力的な環境になるように整備すれば、移住者も増加するのではないか。

●市長

・鳥獣被害は非常に難しい問題だが、まずは実態と場所を教えていただき、しっかりと対応していきたい。

②市営住宅(古田新出)

■参加者

・建設後、約 60 年弱経過した市営団地が廃墟と化し、景観が非常に悪い。
・また、大風や風災害による飛来物があれば大変危険なので、本庁担当課とある程度話はできているが、一早く対応してほしい。
・古田新出部落の統一見解としては、できれば更地にして災害時に活用できればと思う。可能であれば、芝生を生やしてほしい。

●市長

・古田新出の市営住宅は、今年 10 月末時点で全員が退去されたので、担当課の計画としては、令和 9 年度に解体予定である。
・自分も一度現場を見たいと思っている。

③井戸水、手押し式ポンプ

■参加者

・大きな地震が発生すると、地表が揺らぐ影響で水口が変わり、従来出ていた地下水が出なくなる場合がある。
・電気系統が止まってしまったらポンプがかからないので、手押し式のポンプであれば水が出る。東京の公園では全部手押し式なので、そういったことも考えて頂きたい。

④高齢者の移動手段

■参加者

・高齢者で免許を返納された方や車を所有していない方は、徒歩以外では、移動でタクシーを利用するしかない。
・全員がお金に余裕があってタクシーを利用できるとは限らず、親族がいない方もいる。お店に買い物にも行けない。移動販売は割高で、毎日来るわけではない。

- ・よりよいタクシーは、曜日が限られており指定した時間でないと来てもらえない。病院や市役所は帰りがいつになるか分からないので、帰りの便がないこともある。
- ・支援策が分からないことがたくさんある。できるだけつなぐようなことをしているが、それでも十分に助けてあげられることができないので、そこのところをお願いしたい。

●市長

- ・今すぐの回答にはならないが、担当課と相談していきたい。